

# XXIII World Congress of Neurology

September 16–21 2017  
Kyoto, Japan



2017年10月吉日

日本神経学会会員各位

## 第23回世界神経学会議/第58回日本神経学会学術大会 開催報告と御礼

去る9月16日から21日、世界神経学連合と日本神経学会・日本学術会議の共催で、第23回世界神経学会議(WCN2017)・第58回日本神経学会学術大会が、国立京都国際会館で開催されました。秋篠宮殿下・妃殿下をお迎えしての開会式では、秋篠宮殿下から神経内科の今後の発展に大きな期待を寄せるお言葉を頂戴し、厳粛な中にも明るく希望に満ちた会議の幕開けとなりました。学術・教育プログラムでは利根川進博士、エドヴァルト・モーザー博士、山中伸弥博士3名のノーベル医学・生理学賞受賞者によるプレナリー講演をはじめ、世界中から招かれた294名のトップ研究者の学術講演、教育講演が観衆を魅了しました。一般口演は318演題、ポスター発表は2694演題を数え、熱心な討議が行われました。社交プログラムに関して述べますと、17日の開会式後に国立京都国際会館で行われたウェルカムレセプションは強風のため屋内開催となりましたが、日本の太鼓や和服のダンサーによる踊りが観客を楽しませました。また20日、世界遺産の醍醐寺で行われた日本文化ネットワーキングイベントでは、ライトアップされた三宝院の日本庭園、パーティー会場となった霊宝館の国宝の仏像や絵画、開宴にあたって行われた僧侶の声明が海外からの参加者に深い感銘を与えていました。17日夜に近畿地方に到達した台風18号は、大会プログラムに大きな影響を与えることなく、その後はおおむね天候に恵まれ、6日間の日程を無事終了することができました。

6日間の本会議参加者総数は8,641名となり、これは1931年ベルンでの第一回会議以来86年の歴史を誇る世界神経学会議史上最大となりました。この中で国内参加者は5,111名を数え、その多くは会員の先生方、そして国内企業の方々と存じます。皆様のご支援とご協力なくして今大会の成功はありませんでした。心より御礼申し上げます。また国内参加者の中では、学生トラベルグラント受給者6名、学生ボランティア37名、計43名もの学生が世界神経学会議に参加し、未来の芽を育むことができたことも先生方のご協力あってのこととあわせて感謝申し上げます。さらに、国外のうちアジアオセアニアからの参加者が1,500名を超えたことも今大会の大きな成果でした。今後、国際化の進んだ日本神経学会学術大会に、国外、特にアジアオセアニアからより多くの神経内科医に参加していただく基盤が、WCN2017で築かれたように感じております。

いずれ報告書をご覧いただけるように致しますが、まずは書面にてご報告と御礼を申し上げます。

末筆ながら先生の益々のご健勝とご発展を祈念いたします。

第23回世界神経学会議大会長 水澤英洋  
第58回日本神経学会学術大会大会長 宇川義一  
日本神経学会代表理事 高橋良輔